

1. 第7回 AEGIS-Women 総会ご報告（第78回日本消化器外科学会総会）

2023年7月13日、第78回日本消化器外科学会総会会期中に、第7回総会をハイブリッド形式で開催いたしました。現地開催は4年ぶりでしたが、和やかな雰囲気の中で行うことができました。



正会員の出席者19名、委任状46通により、会則の総会成立に関する項目を満たし、野村前会長より開会の宣言が行われました。2022年度の活動報告、会計報告および2023年度の活動計画、予算案について承認されました。続いて運営委員の紹介とともに、河野新会長から挨拶がありました。（左写真、ニュースレター第39号参照）



2. 第78回消化器外科学会特別企画

2023年7月14日、第78回消化器外科学会で、特別企画「不可視化されたジェンダーバイアスを明らかにする～消化器外科領域の男女共同参画の真の実現に向けて～」が開催されました。この企画では、当会前会長の野村幸世先生（東京大学）と運営委員の調憲先生（群馬大学大学院）が司会を担当されました。演者として河野恵美子会長（大阪医科薬科大学）と大越香江副会長（日本バプテスト病院）が発表を行い、運営委員の北川雄光先生（慶應義塾大学）より特別発言として締めのお言葉がありました。まず野村先生から消化器外科学会における女性会員の現状について説明がありました。

河野先生から、2022年に JAMA Surgery に掲載された論文『日本における男性外科

『医と女性外科医の手術修練格差』について発表がありました。NCD（National Clinical Database）を利活用し解析した結果、日本では女性消化器外科医は男性消化器外科医に比べ、全年齢層で手術執刀数が少なく、手術難度が高いほどその傾向が大きいことがわかりました。また消化器外科領域に指導的立場の女性が極端に少ないのは、外科手術のトレーニングの機会が男女均等に与えられていないためだと考えられました。（Kono E, Isozumi U, Nomura S, Okoshi K, et al. Surgical Experience Disparity Between Male and Female Surgeons in Japan. *JAMA Surg.* 2022; 157(9): e222938）

<https://jamanetwork.com/journals/jamasurgery/fullarticle/2794668>

次に大越先生から、2022年にBMJに掲載された論文である『男女の消化器外科医による手術成績の比較』について発表がありました。NCDを利活用し、幽門側胃切除術、胃全摘術、低位前方切除術において、執刀医の性別による手術関連死、術後合併症発生率の差を解析したものです。執刀医の性別による手術短期成績に有意な差はみとめられませんでした。また女性消化器外科医は男性消化器外科医より併存疾患を有するなどリスクの高い症例を多く担当しており、腹腔鏡手術の割合が少ないなどの担当症例の差も明らかになりました。（Okoshi K, Endo H, Nomura S, Kono E, et al. Comparison of short term surgical outcomes of male and female gastrointestinal surgeons in Japan: retrospective cohort study. *BMJ* 2022; 378: e070568）

<https://www.bmj.com/content/bmj/378/bmj-2022-070568.full.pdf>

その後【函館宣言】へ進みました。



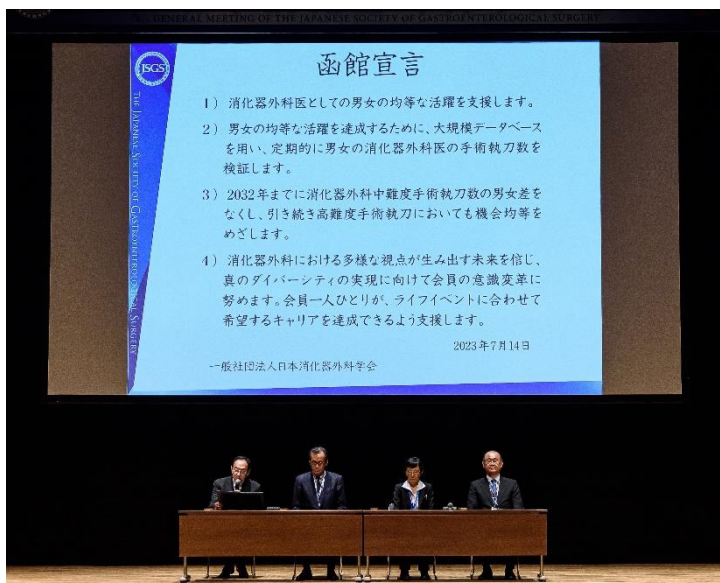
3. 函館宣言

函館宣言の内容は以下の通りです。

- 1) 消化器外科医としての男女の均等な活躍を支援します。
- 2) 男女の均等な活躍を達成するために、大規模データベースを用い、定期的に男女の消化器外科医の手術執刀数を検証します。
- 3) 2032年までに消化器外科中難度手術執刀数の男女差をなくし、引き続き高難度手術執刀においても機会均等をめざします。
- 4) 消化器外科における多様な視点が生み出す未来を信じ、真のダイバーシティの実現に向けて会員の意識変革に努めます。会員一人ひとりが、ライフイベントに合わせて希望するキャリアを達成できるよう支援します。

<https://www.jsogs.or.jp/diversity/about/declaration.html>

(宣言内容と学会写真の転載については日本消化器外科学会の許可をいただいております。)



この宣言に、野村先生、北川先生、調先生、今学会会頭の袴田健一先生（弘前大学大学院）が壇上で署名されました。この学会の変化に、当会の活動が少なからず影響を与えてきたと考えています。これも、これまで関わり支えてくださった会員の皆様のお陰です。心から感謝申し上げます。

また会場には、この歴史的な宣言につ

いてNHKの取材が入り、同日WEBニュースで配信されました。

編集：藤川善子、松永理絵、大越香江